

<「知るっば！久留米」 令和3年9月2日（木） 12：30～放送分>

久留米入城400年（後編） ～第1回～ 「歴代の藩主から（1）」

<ゲスト：久留米市文化財保護課 白木 守>

坂本 MC（以下「坂本」）

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今週も、『久留米入城400年』をテーマにお送りしていきます。ゲストはこの方です！

ゲスト：白木さん(以下「白木」)

久留米市文化財保護課 白木守です。よろしくお願いします。

坂本 今回からは2代目以降の藩主たちについて、

その人となりやエピソードなどを取り上げていきたいと思います。よろしくお願いします。

白木 初代藩主の豊氏については、

『久留米入城400年（前編）』第1回の放送で詳しく紹介しております。

ただ、それ以外の藩主の名前や功績は、ほとんどの方は知らないんじゃないでしょうか。

まず、2代の忠頼（ただより）から紹介していきますね。

坂本 徳川家もそんな気がするのですが、

初代が偉大だったりするので、2代目というとし地味なイメージがありますよね。

白木 そうですね。2代藩主の忠頼は、豊氏の次男として京都の福知山で生まれています。

実は忠頼の「忠」の字、「忠誠を尽くす」の「忠」という字ですが、

これは徳川家2代将軍の秀忠から賜ったものなんですよ。

坂本 そうなんです。それは知らなかった。

忠頼のお母さん、つまり豊氏の正室は、徳川家康の養女・連姫（れんひめ）ということでしたし、

その意味でも徳川家との関係は深いということですね。

白木 実は家康も、忠頼の誕生を大そう喜んだと伝えられています。

この忠頼は、領内の治水や土木にも尽力していたんですが、

残念ながら、参勤交代の途中、瀬戸内海の船の上で家来に殺されてしまうんですね。

坂本 藩主を殺害する、つまり暗殺ですよ。それは大事件じゃないですか。

白木 今であれば、テレビのニュース速報で流れてくるほどの大事件です。
この事件で、5名の家臣が責任を感じて殉死をするという残念な結果になっています。
父（忠頼）の急死により3代藩主となったのが頼利（よりとし）なのですが、この時なんと4歳。

坂本 4歳って、今でいえば保育園くらいでしょう。

白木 さすがに実際の政治は園児では無理があるので、周りの家老がサポートしていくんですが、
頼利は立派に成長して、13歳の時に筑後川の大石・長野堰を完成させるなど、
利水事業にも取り組みました。

坂本 五庄屋で有名な大石・長野堰ですよ。
13歳で成し遂げたということであれば、さぞかし将来を有望視されたことでしょう。

白木 非常に期待されていたのですが、頼利は17歳の時に病気で亡くなってしまいます。
しかも、亡くなる4ヵ月前に結婚したばかりなんです。
相手の系姫（いとひめ）は16歳、今でいえば高校生カップルですね。
ちなみに系姫は、水戸黄門でおなじみの水戸光圈（みとみつくに）公のお孫さんです。

坂本 徳川家康や秀忠に続いて、またまた有名どころが登場してくるわけですね。
結婚してすぐに殿さま（夫）が亡くなるとは、系姫さんもさぞかしショックだったでしょうね。

白木 系姫は仏門に入って49歳で亡くなるまで、再婚しなかったそうです。
頼利も4歳から17歳までという人生の多感な時期に、
子どもとして楽しむこともままならないまま生涯を終えたのは、
藩主としてではありますが、少しかわいそうに感じる部分もあります。

坂本 早死にした藩主もそうでしょうし、残された系姫も若かったのにそのまま再婚もしなかったとは、
なかなかかわいそうだなと、今の感覚からすると辛いと思いますね。

白木 そうですね。実は10代藩主の頼永（よりとお）も若くして亡くなるのですが、
この方に嫁いだ晴姫（はるひめ）も結婚生活9年ほどで未亡人となります。
結婚した当時、頼永が16歳、晴姫が18歳でした。
晴姫は84歳で亡くなるまで、頼永公の墓前に哀悼の礼を尽くすのを喜びとしたと伝わっています。

坂本 それもまた凄いですよね。
藩主だけが歴史上の表に出てきますが、その裏で夫を支えた奥方、妻の存在も大きいですね。

白木 頼利の死により4代藩主となったのが、弟の頼元（よりもと）なのですが、
この人が藩主になったのは15歳です。

坂本 15歳・・・若いですよ。今でいえば中3か高1くらい。
私が15歳の頃は、高校でずっと絵を描いていましたね(笑)。
そんな時代に、かたや殿様になっていた人もいたとは。私だったらとても耐えられないですね。

白木 今の感覚ではとてもとても考えられないですが、
お兄ちゃんの死によって4代藩主となった頼元ですが、38年間久留米を治めます。
この間に、久留米では飢饉があったりしたので質素儉約に努めるわけですが、
筑後川の大洪水や白石火事と呼ばれる城下の大火事があったりして、
たびたび災害にも見舞われていて気の毒な時代なんです。

坂本 38年も藩主を勤めていると、まあ色々なことが起こりますね。

白木 先週の放送でも紹介しましたが、現在の久留米市街地の骨格となる城下町が完成したのが、
この頼元の時代でした。
そして、頼元の子・頼旨(よりむね)が20歳で5代藩主となるんですが、
翌年に重い病となって22歳で亡くなってしまいます。
有馬以前の田中家もそうでしたが、跡継ぎがいないと大名家としては途絶えてしまいます。
そのため、頼旨が重病となった段階で、幕府に今でいえば養子縁組のお願いをしました。
幕府からの指示で跡継ぎに決まったのが、石野兵庫(いしのひょうご)という旗本だったんですよ。

坂本 旗本というと、将軍家直属の家臣団のひとつですよ。有馬家との関係はあったんでしょうか？

白木 石野家は、元をたどると有馬家の先祖にあたる赤松家の血を引いているんですね。
有馬家の藩祖である則頼(のりより)の娘婿でもあった家系なんです。
そこで、この人が6代藩主の則維(のりふさ)となります。

坂本 そういえば、歴代の藩主の名前には「頼(より)」、いわゆる頼るという字が使われていますが、
この人だけはないですね。そういった事情もあったということなんですか？

白木 おそらく直系ではないということで区別したんだと思います。
一方で藩祖則頼の「則(のり・のつとる)」という字を使っています。
藩政の改革も行いますが、飢饉や一揆にも見舞われた24年間の治世で、55歳で隠居し、
息子に家督を譲ります。

坂本 それぞれの藩主のエピソードは尽きませんが、この続きは来週に。
次回『歴代の藩主から(2)』をテーマにお聞きします。
お楽しみに。